

新 名 誉 会 員 の 紹 介

青木 利晴 氏 昭和 14 年 3 月 生 れ (工 学 博 士)

青木利晴氏は、情報通信の分野において研究・技術開発を極められた後、企業経営のトップを務められました。また、各種パーティにおける青木氏の軽妙なスピーチからうかがわれる、教養の深さとお人柄は、知る人の多いところ です。

同氏は、大学院で電気工学専攻博士課程を修了後、NTT (当時 日本電信電話公社) に入社され、研究所において、長らく今日の、いわゆる ICT (Information and Communication Technology) の基礎研究、技術開発に携わられました。いま、このようにインターネットが身近になったのは、もちろん多くの人たちの努力があったからですが、青木氏がデジタル通信方式、交換方式の基礎から実用化まで担当されたご功績によるところも大きいといえます。同氏の主要な業務が研究マネジメントになってからは、マルチメディアネットワークの研究開発を陣頭に立って推進されました。また、情報通信ネットワークのアーキテクチャを刷新するための国際コンソーシアムを設立し、標準化を先導されました。さらに、光ファイバをオフィスや家庭にまで普及させるために、システムの経済化・国際化を組織的に促進されました。併行して、NTT 研究開発のトップとして「2005 年までに 10 Mbit/s のサービスを月額 1 万円程度で提供する」ことを目標に研究開発を推進すると、1996 年の当時としては極めて挑戦的な目標を宣言され、結果として、4 年ほど早く目標を達成されました。このようにして、今日、きわめて低廉な料金で大量の情報の入手・発信が可能になったのです。

さらに、株式会社 NTT データの社長に転じられてからは、「効率化から価値創造へ」を提唱され、経営改革を図られました。今や、その「価値創造」やそれに類する言葉は、多くの企業がテーマとしています。いつも、何年も先を見通して、技術や組織を導いてこられました。

これら、本務でのご活動の他に、大変多くの学協会 の委員、理事、会長・理事長、いろいろな審議会の委



員、大学の学外評議員、企業の社外取締役など、長年にわたりまことに幅広く活動されてきました。いまま なお、現在進行形です。

または、本学会が創立 50 周年を迎えるときに会長にご就任され、多くの記念事業の実施を推進されたことは、記憶に新しいところです。

本学会は、同氏のご功績をたたえ、去る 2 月 23 日の臨時総会において、同氏に本学会名誉会員の資格を授与することを満場一致で議決しました。

略 歴

- 昭和 37 年 東京大学工学部電気工学科卒業
 - 昭和 42 年 同大学院電子工学専攻博士課程修了
 - 同年 日本電信電話公社入社
 - 平成 2 年 日本電信電話株式会社 (NTT) 通信網総合研究所所長
 - 平成 4 年 同社取締役
 - 平成 8 年 同社常務取締役研究開発本部長
 - 平成 9 年 同社代表取締役副社長研究開発本部長
 - 平成 11 年 株式会社 NTT データ代表取締役社長
 - 平成 15 年 同社取締役相談役
 - 平成 17 年 同社相談役 現在に至る
- 電子情報通信学会フェロー、名誉員、米国電気電子学会 (IEEE) Fellow、前島賞、電子情報通信学会業績賞、功績賞、IEEE Frederik Philips Award、Founders Medal 等受賞。
- OR 学会関係 会長 平成 18・19 年度